



2024年8月9日

各位

会社名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 津村 尚史
(コード番号：3446 東証プライム)
問合せ先 取締役 管理部長 日谷 哲也
(TEL. 072-655-2785)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2025年6月期を初年度とした3ヶ年（2025年6月期～2027年6月期）の中期経営計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の概要

当社グループは、「オンリーワンの技術により、広く社会に貢献する」を経営理念とし、「科学技術イノベーションの創出に貢献する製品開発を推進する」ことを経営方針に定めております。また、当社事業を通して全てのステークホルダーの皆様の期待に応え、人々のQOLの向上を目指し、広く社会に貢献したいと考えております。

2024年6月期におきましては、連結売上高が過去最高の水準を達成したものの、子会社を含めた全ての事業部門において、2023年8月10日公表の2024年6月期連結業績予想数値を大きく下回る結果となりました。

当社グループは毎年ローリング方式で中期3ヶ年計画を策定しておりますが、このような環境下におきまして、今回の中期経営計画は2022年5月30日公表の長期成長戦略「Innovation2030」で掲げた目標を達成するため、非常に重要な中期経営計画と位置付けております。変化率の高い成長性を達成するために、既存事業の継続的かつ安定的な成長と新規事業の本格的な立上げによる成長スピードの向上を果たすため、重点課題に対する取り組みを実施してまいります。

当社グループは、コア技術を探究し続けることにより既存事業の伸長を図るとともに、新規市場への展開及び新技術開発に果敢に挑戦しております。

2. セグメント別の重点課題

① 既存コア事業の安定成長

【放射光施設関連】

オプティカル事業においては、特にエネルギーや半導体といった市場規模の大きな分野の最先端研究が契機となり、各国で放射光施設や自由電子レーザー施設の新規設置あるいはアップグレードの計画、実行が盛んになっております。国内では、新設された第4世代放射光施設 NanoTerasu の稼働開始と Spring-8 のアップグレード計画が報告されましたが、国外では更に多くの計画が進行しております。特にアジアの放射光市場の躍進が目立ち、中国では上海市、北京市を筆頭に合肥市、深圳市で新設計画が現在進行中であり、台湾と韓国の各施設では大規模なリプレースが

行われる見通しとなっております。また欧州では、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン、フランスに点在する大規模の多くの放射光施設でアップグレードの計画が明らかになっています。各々の施設がそれぞれの光源の特徴を活かした多種多様なミラーの設計を行っており、当社はすでに多くの問い合わせを受けております。良好な市場環境の中、当社は受注に向けた検討を進めております。

【自動細胞培養装置関連】

ライフサイエンス関連事業につきまして、昨今の長時間労働是正による労働環境改善、労働人口の低下が全ての業界の重要課題となっており、その解決策の一つとして、当社の取扱い製品である自動細胞培養装置による省人化、無人での連続運転化が期待されております。また東京医科歯科大学が、当社独自の3次元回転浮遊培養装置を用いて、iPS細胞由来のヒト腸管オルガノイド（HI0）の生成に成功されたことや公益財団法人神戸医療産業都市推進機構等と進めている、脳梗塞治療に寄与する幹細胞分離機器（医療機器）の共同開発も計画通り進展したことを受けて、国内のみならず、海外のユーザーからも当社製品に関する問い合わせが拡大しております。今後も大学、病院、製薬会社を問わず、幅広く共同開発先や顧客の裾野拡大を図り、高い成長性の実現に努めてまいります。

【子会社関連】

子会社の電子科学株式会社においては、主力製品である昇温脱離分析装置（TDS）の需要が現在の半導体や液晶・カラーフィルター企業向けのみならず、鉄鋼、電機、自動車、水晶振動子等の様々な産業分野にも市場拡大が見込まれます。既存製品の性能をブラッシュアップした、新しい製品の企画、創出にも注力し、新たな市場に製品投入することで新規顧客の開拓を進めてまいります。

② 新規事業の展開

【次世代加工研磨装置関連】

機器開発関連事業においては、新規重点事業分野として掲げる、各半導体材料を主たる対象としたナノ表面加工技術（触媒基準エッチング法（CARE）、プラズマ援用研磨法（PAP）、プラズマ化学気相加工法（PCVM））を用いた加工プロセスの開発とその装置化、商品化を推進する中、当社技術を高く評価いただいているユーザー数が徐々に拡大しており、特にEV市場拡大のキーとなるパワーデバイス、ポスト5Gの次世代通信技術等に必要となる水晶デバイスやSAWデバイスに用いられるウェハの高精度表面創成技術として注目、期待されております。各種半導体材料等の表面加工技術の高度化と実用化を図るとともに、国内外への販路拡大や大手企業やベンチャー企業とのコラボレーションを進め、製品展開を推進してまいります。

【医療機器関連】

医療機器の開発につきましては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）からの競争的資金を受け、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構などと進めている、脳梗塞治療に寄与する幹細胞分離機器（医療機器）の共同開発も計画通り成果を上げることができ、そのベースとなる単核球分離装置「MK-1000」を商品化いたしました。この装置は脳梗塞治療のみならず、認知症治療等幅広い用途への展開を期待しており、今後、さらに市場ニーズ等の情報を収集し、装置・システムならびに消耗品の販売ビジネスや新規支援ビジネス等の事業展開につなげてまいります。

【半導体・宇宙関連光学部品】

オプティカル事業における各種X線ミラー（光学素子）は、従来技術では不可能であった表面形状の超高精度化を実現することができ、さまざまな産業分野においてビジネスを展開するため

の技術的ポテンシャルを有しております。

半導体や宇宙といった産業において光学部品は必要不可欠な存在であり、これらに対し、当社がこれまで大阪大学との共同研究で開発を進めてきたナノ加工技術（EEM、プラズマCVM、CARE）とナノ計測技術（RADSI、MSI）が精度的に十分活用できるレベルにあるため、特に高性能化傾向が強くなる量産化速度の高い半導体分野に参入する上で重要な要素の技術となります。

現在、半導体の露光、検査ならびに宇宙に関わる高精度光学部品の問い合わせを複数頂いており、テスト加工の受託や大手メーカーとの共同研究開発の締結なども進み、技術検討から開発・試作フェーズに進んでいる案件も多くあります。オプティカル事業の展開によって蓄積された光学素子に関連する知見と技術を活かし、半導体産業などでの利用が見込まれる光学素子製品を中心として、ミラー製品の需要に左右されない新たな事業の柱を構築してまいります。

3. 中期連結業績目標

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	2027年6月期
オプティカル事業	1,560	1,950	2,600
ライフサイエンス・機器開発事業	500	800	1,000
その他（電子科学株式会社）	580	700	900
売上高	2,640	3,450	4,500
営業利益	365	570	963
経常利益	363	568	961
(経常利益率)	13.8%	16.5%	21.4%
当期純利益	231	372	641

(注) 各年度におけるのれん償却額は42百万円を見込んでおります。

(参考) 中期連結売上目標内訳

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	2027年6月期
アジア（国内、豪州含む）	1,000	1,000	1,100
アメリカ（北米、南米）	150	300	450
EU	210	350	450
新規技術開発	100	150	300
放射光施設関連	1,460	1,800	2,300
新規市場開拓	100	150	300
半導体・宇宙等に関連する光学部品	100	150	300
オプティカル事業	1,560	1,950	2,600
各種培養装置	130	135	160
再生医療、新規製品開発及び海外拡販	30	65	90
ライフサイエンス事業	160	200	250
各種特注対応装置	45	50	50
新規市場開拓（次世代研磨装置関連）	295	550	700
機器開発事業	340	600	750
ライフサイエンス・機器開発事業	500	800	1,000
装置販売（TDS：昇温脱離分析装置）	440	530	650
メンテナンス業務	90	90	90
受託分析業務	50	60	60
従来製品	580	680	800
新規技術開発	—	20	100
新規製品	—	20	100
その他（電子科学株式会社）	580	700	900
売上高	2,640	3,450	4,500

(注)

本中期経営計画につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上